6mm角LaBr₃(Ce)ピクセルアレイと 64chマルチアノードPMT読出しシステム を用いたシンチレーションカメラの開発

京大理 岩城 智

谷森達, 窪秀利, 身内賢太朗, 株木重人, Parker.Joseph, 上野一樹, 黒澤俊介, 岩城智, 高橋慶在 澤野達哉, 谷上幸次郎, 中村輝石, 東直樹 ISAS/JAXA:高田淳史

> <u>日本物理学会2009年秋季大会</u> 2009年9月10日(木)@甲南大学

Contents

Introduction

Electron Tracking Compton Camera (ETCC)

□ シンチレーションカメラ

- □ 64chマルチアノードPMT読み出しシステム
- シンチレーションカメラの性能
 - □ GSO(Ce) アレイ
 - □ LaBr₃ (Ce)単結晶
 - □ LaBr₃(Ce) アレイ
- Summary

Electron Tracking Compton Camera (ETCC) •γ線天文学(気球実験, SMILE) Sub MeV~ MeV y線による イメージング •核医療 MeV γ-ray micro-TPC •µ-PICを用いた Drift plane **Time Projection Chamber** ・反跳電子の飛跡とエネルギーを測定 シンチレーションカメラ Pixel Scintillator Array +Multi Anode PMT ・散乱γ線の吸収位置と エネルギーを測定 μ-PIC **PMTs** Scintillator 1event毎にコンプトン散乱を再構成 エネルギーと到来方向を一意に決定

現在のScintillation Camera

Pixel Scintillator Array (PSA) GSO(Ce) crystal array : 8 × 8 Pixel size : 6 × 6 × 13mm³ 各ピクセルはESR(3M)で 光学的に分離

PSAとPMTは オプティカルグリス (OKEN-6262A)で接着



Signal size ~500pC@1MeV

Multi Anode PMT H8500 (浜松ホトニクス) •anode: 8×8 •Size: $52 \times 52 \times 20$ mm³ •Effective area: 49×49 mm²(89%) •Gain:~ 10^6 @ -1000V •Gain uniformity:~1:3



50mm

SMILE実験 Sub-MeV gamma-ray Imaging Loaded-on-balloon Experiment

SMILE I 実験(2006年9月1日)

- 10 × 10 × 15cm³TPC +33MAPMTs
- コンプトンカメラの動作試験@ 35km
- 大気散乱γ線と宇宙拡散γ線の観測



SMILE II 実験(2011年)

- (40 cm)³ TPC +160 or 192MAPMTs(予定)
- Crab、Cyg X-1の観測
 ⇒有効面積の拡大が必須

SMILEIに向けたTPCの開発に関しては				
検出器の大型化	澤野講演	(11aSB-2)		
ガスの高圧化	黒澤講演	(この後)		
ガスの選定(CF4ガス)	高橋講演	(11aSB-3)		

	搭載 PMT数	エネルギー分解能 (FWHM)@662keV	ダイナミック レンジ[keV]	消費電力 [/PMT]
SMILE I	33	~ 11.0%	80-800	2.7W
SMILE II	160	< 11.0%	80-1000	400mW以下

ヘッドアンプユニット

CP80190型ヘッドアンプユニット
64ch 個別読出し
ASICを使わず、汎用部品のみ使用
PreAmpのコンデンサを容量を選ぶことで
入力電荷のレンジを調節(今回は800pC)

- •消費電力:1.2W
- •処理時間:20µs/event
- •Dynode trigger有



クリアパルスと共同開発



抵抗チェーン+ CP80190

さらに消費電力を下げるために抵抗チェーンと組み合わせる



読み出しチャンネル数が1/16に 1台のCP80190で16台のPMTを読み出し可能.





SMILE II 以降及びMedical Imagingに向けて ~角度分解能の向上のために~

現在のETCCの角度分解能: 6.4°(FWHM)@662keV(GSOアレイ使用時) 角度分解能(ARM)はシンチレータのエネルギー分解能に依存.

GSOアレイ: 10.5 % (FWHM)@662keV



LaBr₃(Ce) Scintillator



Saint-Gobain BrilLanCe380 Size:φ38 × 38mm Oエネルギー分解能が良い ~3% @662 keV, FWHM
 O発光量が大きい Nal(TI) の約1.6倍, GSOの約8倍
 Odecay time が短い ~20nsec ×非常に強い潮解性(Nal(TI)より強い)

独自の製法でアレイ化

Pixel size: 5.9×5.9×20mm³
8×8 array
Glass window: 石英 (t 2.3 mm)
Hermetic package: アルミパッケージ (t 0.5 mm)



抵抗チェーンとNIM及びVMEを用いたエネルギー分解能:5.2±0.6%

2008年9月物理学会 高橋講演







ETCCの角度分解能(ARM)4.2° @662keV(FWHM)を期待

Summary

▶次期気球実験SMILE II に向けて

- GSO(Ce) と抵抗チェーン、CP80190を用いた4ch読み出しで SMILE I における全ての要請を満足
 - エネルギー分解能: 10.5% (FWHM)@662keV
 ⇒ ETCCの角度分解能(ARM)6.4°@662keV(FWHM)
 - ダイナミックレンジ : 80keV~1.3MeV
 - 消費電力 :100mW/1PMT

⇒SMILE II 用組み込みシステムへ

- SMILE II 以降及び核医療分野の用途 ETCCの角度分解能向上に向け エネルギー分解能の良いシンチレーションカメラの開発中
 LaBr₃(Ce)とCP80190の64ch読み出しで
 エネルギー分解能: 5.4% (FWHM)@662keV (NIM/VME読み出しと同等)
 ⇒ ETCCの角度分解能(ARM)4.2[°] @662keV(FWHM)を期待
 - ダイナミックレンジ : 80keV~800keV
- ⇒更に分解能を向上するために解析方法を検討

(マルチヒットイベントの除去、PMTのGainバラつきの補正方法)